社会資本総合整備計画

水と緑が輝く安全で快適なまちづくりの推進（Ⅱ期）

第三回変更

広島市

平成30年2月

別紙5－1

社会資本総合整備計画

平成 30年2月16日

計画の名称	5　水と緑が輝く安全で快適なまちづくりの推進（Ⅱ期）	重点計画の該当	
計画の期間	平成27年度　～　平成30年度　（4年間）	交付対象	広島市

計画の目標

広島市は、水と緑が輝くうるおいのある国際平和文化都市の実現を目指し、豊かで美しい自然環境を生かしつつ、安全、快適で美しい都市景観を有する質の高い都市環境の創造に取り組んでいる。近年の地球温暖化やヒートアイランド現象等の環境問題への対応及び災害時における避難場所として公園緑地が大きな役割を果たすことが期待されており、都市における公園・緑地の更なる整備を進める。また、平和記念公園については、トイレのバリアフリー化および園路の舗装を行い、水と緑が輝く安全で快適なまちづくりを推進する。さらに平和記念公園へのアプローチとなる歩道橋整備事業を行い、公園を訪れる観光客等の安全性向上に寄与する。

計画の成果目標（定量的指標）

・都市における水と緑の公的空間である公園・緑地面積をH27年度からH30年度までに一人あたり0.01㎡増加させる。
・平和記念公園を訪れる観光客等を安全に誘導するため、歩道橋を整備し、通行する歩行者、自転車を現状より1割増加させる。

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H27当初）	中間目標値（H29末）	最終目標値（H30末）	備考
計画期間内に本市整備により供用開始される一人あたりの都市公園の面積	7.73 m2	－ ha	7.74 m2	
平和大橋歩道橋の歩行者・自転車の12時間（9～21時）の通行量	3,324　人+台	－　人+台	3,656　人+台	

全体事業費	合計（A＋B＋C＋D）	2,044 百万円	A	1,981 百万円	B	0 百万円	C	63 百万円	D	0 百万円	効果促進事業費の割合 C／（A＋B＋C＋D）	3%

交付対象事業

A　基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H27	H28	H29	H30		全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考
5-A-1	公園	一般	広島市	直接	広島市	都市公園事業（河岸緑地）	東部河岸緑地、西部河岸緑地　計画延長47.7km	広島市						690	－	－	
5-A-2	公園	一般	広島市	直接	広島市	都市公園事業（平和記念公園）	トイレのバリアフリー化および園路の舗装　12.2ha	広島市						212	－	－	
5-A-3	道路	一般	広島市	直接	広島市	平和大橋歩道橋整備	歩道橋整備 L=86m、W=5.7m	広島市						1,079	－	－	
								合計						1,981			

B　関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H27	H28	H29	H30		全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考
								合計									

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C　効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度） H27	H28	H29	H30		全体事業費（百万円）	備考
5-C-1	公園	一般	広島市	直接	広島市	沼田第三公園整備事業	浄水場跡地の公園整備　0.15ha	広島市						63	－
								合計						63	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
5-C-1	太田川の下流に位置する基幹事業（5-A-1）都市公園事業（河岸緑地）と上流の安川沿いに位置する沼田第三公園を緑豊かな親水性のある公園緑地として整備することで、水と緑のネットワークの形成が図れるとともに、地域住民の安全で安心なまちづくりを支援することが出来る。	

D　社会資本整備円滑化地籍整備事業（該当なし）

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H27	H28	H29	H30		全体事業費（百万円）	備考

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

交付金の執行状況

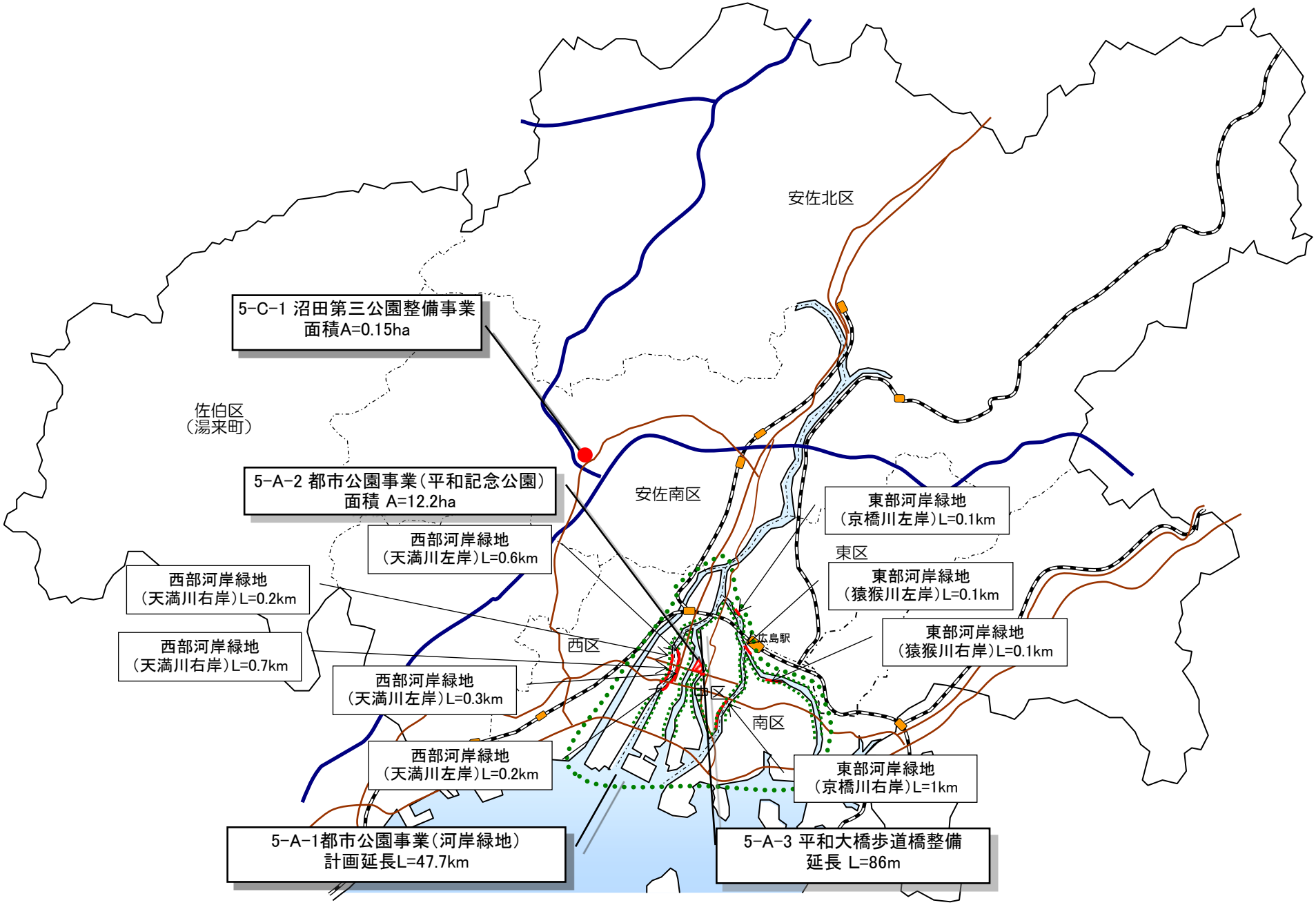
（単位：百万円）

	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	57	134	110	239
計画別流用 増△減額	0	0	0	0
交付額 (c=a+b)	57	134	110	239
前年度からの繰越額 (d)	27	55	82	49
支払済額 (e)	22	107	143	143
翌年度繰越額 (f)	55	82	49	122
うち未契約繰越額 (g)	17	1	0	0
不用額 (h = c+d-e-f)	7	0	0	23
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	28.6%	0.5%	0.0%	8.0%
未契約繰越＋不用率が10%を超えている場合その理由	建築工事について、技能労働者不足などにより入札不調が頻発したため。			

※　平成２６年度以降の各年度の決算額を記載。
※　平成29年度は、決算額が確定でき次第記載。

（参考図面）市街地整備

計画の名称	5　水と緑が輝く安全で快適なまちづくりの推進（Ⅱ期）		
計画の期間	平成27年度　～　平成30年度　（4年間）	交付対象	広島市



社会資本整備総合交付金チェックシート

（広域連携事業等タイプ）

計画の名称：水と緑が輝く安全で快適なまちづくりの推進（Ⅱ期）　事業主体名：広島市

	チェック欄
Ⅰ．目標の妥当性	
①基本方針・上位計画等との適合等	
1）基本方針と適合している。	○
2）上位計画等と整合性が確保されている。 （該当するものに○） 1　国土形成計画全国計画　2　国土形成計画広域地方計画、北海道総合開発計画又は沖縄振興計画 ③社会資本整備重点計画　4　環境基本計画　⑤その他(広島市第5次基本計画、緑の基本計画)	○
②目標と広域的特定活動及び拠点施設との関係	
1）広域的特定活動により、目標達成の可能性が高い。	○
2）広域的特定活動の拠点としての拠点施設の位置づけが妥当である。	○
Ⅱ．計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1）目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2）指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3）指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
4）拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業の一体性が確保されている。	○
5）地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	―
④事業の効果	
1）十分な事業効果が確認されている。	○
2）他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	―
Ⅲ．計画の実現可能性	
⑤計画の具体性	
1）拠点施設で広域的特定活動が実施される見込みが高い。	―
2）拠点施設整備を新たに行う場合、その蓋然性が高い。	―
⑥円滑な事業執行の環境	
1）民間事業者等の多様な主体との連携が図られている。	―
2）事業実施のための環境整備が図られている。	○